

野蒜海岸で離岸流調査

海水浴シーズンに向けて



離岸流

ドローン映像
(7月11日午前)

宮城海上保安部は、7月11日、遊泳中の事故防止を図るため、東松島市野蒜(のびる)海岸で離岸流調査を実施しました。調査は、長岡技術科学大学の犬飼准教授の協力のもと行われ、仙台航空基地の機動救難士が無害の海面着色剤を投入すると、緑色で視覚化された3本の離岸流が確認されました。

調査は、テレビ局4社・新聞等3社の取材があったほか、東松島市副市長、警察、消防や海上安全アンバサダーの谷田圭さんなど多くの関係者に見学していただきました。離岸流は野蒜海岸に限らず、その日の気象・海象によって、どの海岸でも発生し得る現象です。海水浴は、監視員が配置され、事故が起きた時の救助体制が整った「開設された海水浴場」の利用を強く推奨します。

◇体験取材や救助訓練も

調査は、3名の海上安全指導員にも協力いただき、海上安全指導員が操縦する安全パトロール艇(水上オートバイ)2隻と仙台航空基地の機動救難士3名の警戒のもと、5名の報道関係者が離岸流を体験取材しました。



離岸流体験取材

漂流者救助訓練



海上安全指導員

また、調査に立ち、機動救難士が漂流者役を務め、海上安全指導員が安全パトロール艇で救助する漂流者救助訓練を行いました。

マリンレジャーが活発な季節を迎えています。引き続き、SNS等を活用した安全啓き協力をお願いします。

小型船舶の海難防止と海洋レジャーの発展のために昭和49年に導入した制度なのよ。指導員も安全パトロール艇も管区本部長から指定を受けるの。地域と密着した安全活動をボランティアでしているわ。宮城県では16名の指導員と14隻のパトロール艇が活動しているのよ。



海上安全指導員?
うーみん
教えて!

「海の安全教室」も対象は先生も

7月14日、多賀城市東豊中学校のプールにおいて、多賀城高校主催により、多賀城市、塩釜市、七ヶ浜町の小中学校教員を対象とした「海の安全教室」が開催されました。



宮城海上保安部と機動救難士が講師となり、23名の教員に対して、海中転落時の対処方法、救命胴衣の有効性、海中転落しなため注意事項や児童等への教え方を指導しました。教員の皆さんが各学校で見守りに指導すること、より効率的に事故防止に繋がることが期待されます。

機動救難士ってなに? 教えて!

うみまる

ひとこと言えれば空飛ぶ救急隊だよ! 航空基地で働く海上保安官なんだ。事故が起きたらすぐにヘリコプターで現場に駆けつけて救助にあたるよ。機動救難士には救急救命士の資格を持った人がいて、必要があればヘリの中で救急救命処置をすることができるんだ。ほかにも潜水作業やヘリを使った吊り上げ救助もする人命救助の専門家だよ。

